The Japan Association of Public Universities

公立大学協会

公立大学協会ニューズレター Vol.5/No.2
2010年11月11日発行（通刊第21号）

【発行責任者】矢田　俊文（公立大学協会会長／北九州市立大学長）
【編集責任者】中田　晃　（公立大学協会事務局長）
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9Ｆ
TEL（03）3501-3336　FAX（03）3501-3337
E-mail: jimu@kodaikyo.jp　URL：http://www.kodaikyo.org/

公立大学は全国42都道府県に
80大学が設置されています。

平成22年度地区協議会を各地区で開催

一般公開のシンポジウム等の取り組みも

平成22年度は、九州・沖縄地区（8月31日）を皮切りに、全国6カ所で地区協議会が開催された。理事会からの提案議題、構成大学からの提案議題について活発な協議が行われた。

今年度は、地区協議会の開催に併せて、シンポジウムやセミナー等を開催する地区もあった。そのうち、九州・沖縄、東海、北海道・東北地区の3地区の取り組みについて議長校から報告してもらった。

シンポジウム「公立大学法人化の成果と課題」報告

福岡県立大学人間社会学部長・研究科長
森山　沾一

公立大学は1990年代以降、保健・医療・福祉・地方政策型大学や総合型大学等を中心に「地域とともにつくる大学」として成長し、存在感と必要性を増してきている。現在、その数80、内54大学（68％）が法人化されているが、法人化の成果と課題を検証するのが今回のシンポジウムの趣旨であった。

公立大学法人への評価は、それぞれの地方自治体が条例に基づき設置した評価委員会で行われる。一元的評価体制が取られている国立大学法人評価とは異なり、様々な課題に直面している。そのため、会員校が一堂に会する地区協議会の場で、相互理解・交流を深めることのできたシンポジウムは大変有意義なものであったと言える。

まず、「公立大学法人に関する地方独立行政法人評価委員会の評価の状況」（中間報告）を公立大学協会の中田事務局長が報告した。ホットな客観的データで法人化後の全体像をつかむことができた。

その後、九州歯科大学の福田仁一理事長・学長、長崎県立大学の池田高良学長、熊本県立大学の古賀実学長よりそれぞれ法人化後の取り組みを発表していただいた。福田理事長・学長からは、成果として戦略的運営や自律的予算編成が可能となったことがあげられ、課題では特に教員の意識改革、事務局体制の整備などが出された。池田学長からは成果としてグランドデザインが描けること、法人評価結果の公表により説明責任が果たせることがあげられ、課題ではプロパー職員の専門性の向上や評価作業負担の過重などがあげられた。古賀学長からは、学外者の参画による開かれた運営、活力の集約化と地域からの期待向上が語られ、課題として第2期中期計画での質向上、専門性の高い事務職員、安定した財政基盤などが出された。報告への質問・回答も含めて、率直に内部の成果や課題を出し合い、有意義な時間を共有することができた。

最後に公立大学協会矢田俊文会長が特別講演「公立大学法人の課題と展望」で、公立大学の急増と役割、国の高等教育政策と法人化、公立大学法人の課題、今後の展望の順に、新著『北九州市立大学改革物語』（九州大学出版会）なども引用しながら熱くかつ冷静に語られた。地方国立大学も地域貢献を打ち出しているが教員の眼は国際中心であり、グローカルな視点では公立大学が先行している。公立大学は、全国的な声をまとめれば一本化できるし、政策的な提言・展開も可能であると今後へのエールを送って頂いた。

「ストロング・アーツ～地域の元気は、芸術文化の元気から」シンポジウムと SDセミナー「情報の共有化と人材育成の進め方；大学職員として今、何をなすべきか」を同時開催

愛知県立芸術大学長　磯見　輝夫

9月10日(金)名古屋都市センター大研修室において、公立大学関係者、地方自治体関係者など約80名の参加を得て、地域振興と文化･芸術をテーマにシンポジウムが開催されました。

基調講演は、加藤恒夫企業メセナ協議会専務理事による「ニューコンパクト：文化振興による地域コミュニティ再生策」との演題で、文化振興に企業メセナ協議会がいかに携わり、地域と関わってきたかについて講演がありました。

次いでパネルディスカッションを行い、川本敦久金沢美術工芸大学産学連携センター長、桑原美香福井県立大学経済学部准教授、入江経一情報科学芸術大学院大学研究科長、中尾知彦静岡文化芸術大学文化政策学部准教授、横山清子名古屋市立大学芸術工学研究科長による東海・北陸地域における多様な文化・芸術活動の事例紹介がありました。5名のパネリストによる事例紹介を受けて、加藤恒夫企業メセナ協議会専務理事から、地域の様々な活動を稔りあるものにするには、大学は市民や商店街などと連携し、コーディネーターとしての役割とネットワークを築くことが重要である旨のコメントがありました。なお、パネルディスカッションのコーディネーターは、長谷高史愛知県立芸術大学美術学部長が務めました。

シンポジウム

SDセミナー

今回の企画で特徴的だったのは、シンポジウムに引き続き、SDセミナーを開催したことです。

セミナーの参加者は43名で、「情報の共有化と人材育成の進め方；大学職員として今、何をなすべきか」をメインテーマとし、二部構成で行いました。東海・北陸地区の公立大学の教職員の方による事例・研究発表に続き、参加者全員による意見交換の場としました。

具体的には、「ＳＮＳを使った情報共有の有効性」(福井県立大学学術教養センター教授山川修氏)、「マニュアル作成と有効性」(愛知県立大学守山キャンパス部学務課主任岡田卓哉氏)、「名古屋市立大学におけるSDの状況」(名古屋市立大学総務課係長齊藤守弘氏)を、パワーポイントを使い視覚的にも分かりやすく、発表を行っていただきました。

意見交換では、愛知県立大学学術情報部長の春日井隆司氏の活気あるコーディネーターのもと事例・研究発表への質問等や意見交換を行いました。日頃の実務経験に基づく活発な意見交換が行われ、予定時間をオーバーしてしまうほど、盛況に終えることができ、大変、有意義なセミナーとなりました。

各地区協議会の開催日時場所及び主要な開催内容等

【北海道・東北地区協議会】（議長校：青森県立保健大学）
9月30日（木）青森県立保健大学
○協議会（文部科学省説明・理事会提案議題・地区協議会提案議題）
○公開シンポジウム「大学職員の教育・SDとOJTについて」
　講演1「大学事務職員に期待すること」
　　講師：結城章夫氏（山形大学長）
　講演2「山形大学で学ぶ事務職員の例」
　　講師：樋口浩朗氏（山形大学連携推進室係長）
　パネル討議「大学職員の教育に必要なもの」

【関東・甲信越地区協議会】（議長校：高崎経済大学）
9月17日（金）高崎経済大学
○協議会（理事会報告）
○公立大学法人化の課題と地域貢献についてのシンポジウム
　基調講演「大学改革に求められていること－公立大学とマネジメント」
　　講師：清成忠男氏（前法政大学総長，首都大学東京評価委員長）
　報告1「公立大学法人化と大学改革」
　　布施勉横浜市立大学長／加藤祐三都留文科大学長
　報告2「公立大学の地域貢献・連携のさらなる飛躍をめざして」
　　大宮登高崎経済大学副学長／古谷幸治神奈川県立保健大学副学長

【東海・北陸地区協議会】（議長校：愛知県立芸術大学）
9月10日（金）名古屋都市センター
○シンポジウム「ストロングアーツ；地域の元気は、芸術文化の元気から」
　基調講演「文化振興による地域コミュニティ再生策」
　　講師：加藤恒夫氏（企業メセナ協議会専務理事）
○SDセミナー「情報の共有化と人材育成の進め方～大学職員として今、何をなすべきか～」
　「SNSを使った情報共有の有効性」山川修 福井県立大学教授
　「マニュアル作成と有効性」岡田卓也 愛知県立大学学務課主任
　「名古屋市立大学におけるSDの状況」齊藤守弘 名古屋市立大学総務課係長
○協議会（文部科学省説明・理事会提案議題・地区協議会提案議題）

【近畿地区協議会】（議長校：京都府立大学）
9月2日（木）平安会館（京都市）
○協議会（理事会提案議題・各大学共通課題について）
　　法人化前後における大学運営の変化について
　　教員評価の基準等について
　　各大学からの状況報告等

【中国・四国地区協議会】（議長校：広島市立大学）
10月5日（火）広島市立大学
○協議会（理事会提案議題・構成大学提案議題等）
　　法人職員の人事教育のあり方について
　　危機管理について
　　教員人事等について　他

【九州・沖縄地区協議会】（議長校：福岡県立大学）
8月31日（火）福岡ガーデンパレス（福岡市）
○協議会（理事会提案議題・議長提案議題）
○シンポジウム「公立大学法人化の成果と課題」
　特別講演：矢田俊文北九州市立大学長

北海道・東北地区協議会公開シンポジウム「大学職員の教育」について

青森県立保健大学長　リボウィッツよし子

八甲田山がくっきりと姿を見せた秋晴れの日、地区の公立大学学長を含めた約100人の教職員が本学に集い、自由で刺激的な意見交換がなされた。

シンポジウムは2部で構成され、第1部では、山形大学の結城章夫学長から「大学事務職員に期待すること」、続いて同大学事務局の樋口浩朗氏が「山形大学で学ぶ事務職員の例」をテーマに講演され、第2部では、両講演を受けて、「大学職員の教育に必要なもの」についてパネル形式で討議を行い、会場からも多くの意見や質問が寄せられた。

＊　＊　＊

結城学長は、まず大学の法人化により生じた大きな変化は、学問の自由に加えて経営の自由を獲得し、法人化後の学長の権限と責任が増したこと、また法人化前の大学の主役は教員であり、事務局は裏方であったが、法人化後の事務局は大学の主役となり、果たすべき役割は激変したということが述べられた。

そのうえで、山形大学の取り組みについて、

１）事務職員の採用を、学長の人事戦略で行うこと。山形大学には現在約300人の事務職員がおり、毎年10人程度の職員を採用しているが、山形大学卒業生を対象として「ブロック試験」を行い、半数程度を山形大学卒業生から採用していること、

２）事務職員の育成にあたっては、自己啓発を推奨し、研修を実施していること、

３）事務職員の経営幹部への登用に関しては、教育背景、年齢、ジェンダー、国籍にかかわらず昇格する機会があり、事務職という専門職の集団を形成する職場文化や研修制度の構築と人事交流を開始。課長以上の人事が国の派遣職員であった法人化前と異なり、職場が活性化されたこと、などについて事例を挙げていただいた。

そのうえで、学長の経営を支える事務職員に対し

１）失敗を恐れずに、良いと思うことは先ずやってみよう。

２）事務の仕事はスマートに。

３）世のため、人のためとの使命感を持って、仕事は楽しく、情熱的に。

というメッセージを発信していると述べ、「学生が主役の大学創り」という「結城プラン2010年」により、ビジョンを明確化し、発信している点を強調されていた。

＊　＊　＊

続いて、山形大学工学部の卒業生でもある樋口氏から大学職員としての豊かな自己啓発の軌跡を、

１）良い機会に恵まれたこと：教授から「大学制度とは何か」を学ぶため、世界一周の命を受け学習したこと、文部科学省で海外子女教育課に学んだこと、中国政府派遣奨学留学生として１年間学習できたこと。

２）良きメンターとの出会い：国立大学協会への出向で全国の大学の状況を学び、多くの先生方から支援と示唆を得られたこと。

３）能力を発揮できる自由な組織風土：遠山プランに対応した「山形大学アクションプラン」を30代の職員仲間で作成。また、学長、理事、教員および若手職員と輪講会を実施し、山形大学自己啓発研修制度や科研費奨励研究を開始したこと。

４）共に学び刺激しあう仲間の存在：第１回大学職員サミットの設立や、若手勉強会等種々の有志勉強会を設立し、また、立命館大学との人事交流を開始したこと。

等の４点にわたり話された。

＊　＊　＊

お二人の講演を受けての会場の感想は、「学生に目線を置き、教職員一丸となって学生中心の教育に取り組むお二人の姿勢は“素晴らしい”」の一言であった。

また、Q＆Aでは、職員数の少ない公立大学における研修制度の構築は可能か？　不在者の対応をどうするか？　一丸となって取り組んだアウトカムの測定方法はどうするか？

卒業生に集中する雇用形態は公平性を欠くのでないか？　職員のマネジメント方法や研修の予算はどうするか？　などの質問があり、また、教員の大学職員としての教育も必要である等の討議を経て、学長の明確なビジョンとリーダーシップもさることながら、それを支える樋口氏のような、主体性を持ち、自己啓発を行い、判断できる事務職員の育成をどのように行うかという点について、公立大学の課題が明確化された。

今後、公立大学事務職員のプロパー化が進展するなかで、教職員が共に広く大学制度を学習し、又、大学事務職員を専門職として醸成する職場風土の育成のための“仕組み”づくりに取り組む緊急性と重要性を実感した会であった。

事務局より

各地区で一般公開されたシンポジウムやセミナー、また公立大学職員セミナーの模様を関係者から寄稿して頂きました。協会では、今後も一般の皆さまにもご参加いただけるシンポジウム等を企画する予定です。今後のセミナーやシンポジウムのお知らせは、協会ホームページでもご案内いたします。

公立大学職員セミナー開催される（8月26日・27日　国立オリンピック記念青少年総合センター）

講師・企画委員を含めると100名以上が集った「公立大学職員セミナー」。このセミナーのプログラムの企画を担当したSD研修企画作業部会の関屋一博委員（岩手県立大学職員）にその様子をご寄稿頂きました。

公立大学のSDと職員間のネットワーク

岩手県立大学　関屋一博

全国の大学でSDへの取り組みが一般化し、大学独自の活動は勿論、専門学会による活動や、職員有志の自主的な勉強会等も盛んに行われている。国私立大学と比べ多様な設置・運営体制、職員の身分構成を持つ公立大学では、大学運営のあり方に対する疑問や、職員間の意識の違いへの違和感が存在するが、こうした公立大学特有の課題が議論される機会は、これまでほとんどなかった。

このような現状にあって、全国の公立大学職員間のネットワークを作り情報交換を行うことで、公立大学発展のために自分達が出来ることが見えてくるのではないか。昨年、このような思いを数名の公立大学職員の方々に提案したところ快く賛同いただき、公立大学協会の会議室をお借りして自主的な勉強会を数回開催した。その意見交換において、当面「公立大学協会や学会の場を活用した問題提起、情報発信」を目指すこととしていたところへ、タイミングよく今回のセミナーの企画に関わる機会をいただいた。

企画作業部会では、昨年度のセミナーでもっと話し合いの時間がほしかったという声を踏まえ、少人数グループでの話し合いを重視することとし、種々議論のうえ何度もプログラム構成を組み替えた。当日は40大学から89名の参加があり、内訳は自治体（派遣）職員35％、法人採用職員65％、約6割が大学経験3年以下の方々であった。

矢野講師からの公立大学の歴史と現状分析を踏まえた課題、川野講師からの顧客意識やマネジメントの視点による大学職員像に関する講演、現場の職員からの事例発表の後、グループで活発な意見交換が行われ、参加者アンケートでも「刺激を受けモチベーションが上がった」「有意義だった」等の回答が多く、一定の成果を得ることができた。一方、法人採用職員のキャリアパスへの不安や、現場での職員間の意識共有等の課題も浮き彫りとなった。

「学士課程教育の構築に向けて」中教審答申以来、各地でSDに関する様々な研究・検討が行われている。大学行政管理学会ではSDの目的を「大学改革実現へのマネジメント業務のできる職員の能力開発」と定義し、また職員に必要な能力として特定分野のスキル・専門性だけでなく、

グループでの話し合いの一コマ

教員や学生とのコミュニケーション能力、企画立案や課題解決能力、そして使命感や心意気を掲げる報告もある。これらに対し個々の大学が各々の特徴に応じたSD体制を構築するためには、学外団体・機関との有機的な連携が不可欠であり、特に地方に偏在した小規模大学が多い公立大学にあっては、公立大学協会の果たす役割は大きい。

私自身は県職員から志願して法人職員となった者であるが、今回のセミナーに関わらせて頂いたことで、貴重な経験と学びを得ることができた。参加した方々は様々な経歴や職位であるが、それぞれの気づきを業務に活かし、同僚に語り、またこれからの公立大学を支える同士として共にネットワークを創り上げていくことができれば、と思う。

公立大学協会の主な活動の記録　（2010.7.1 ～ 2010.10.31）

役職名組織名は全て日付当時

7月

2日（金）★公立大学協会看護・保健医療部会総会（神奈川県立保健福祉大学）

5日（月）★公立大学実態調査表の作成説明会〔メルパルク東京〕

12日（月）★第1回UMAP日本国内委員会　角山茂章委員（会津大学長）、小山内優委員代理（国際教養大学副学長）、岡田公夫委員（横浜市立大学国際総合科学部長）出席〔学術総合センター〕

15日（木）★財団法人産業教育振興中央会「大学等入学者選抜に関する要望書」を受理

23日（金）★全国公立医科歯科大学長・事務局長会議〔ホテルグランヴィア和歌山〕

8月

2日（月）★第1回公立大学協会の組織等検討作業部会〔協会事務局〕

4日（水）～6日（金）★公立大学法人会計セミナーⅠ・Ⅱ〔学術総合センター〕

9日（月）★第1回中長期的な大学教育の在り方検討作業部会〔協会事務局〕

11日（水）★第2回SD研修企画作業部会〔協会事務局〕

23日（月）★第2回第2委員会〔協会事務局〕

24日（火）★第1回運営会議〔協会事務局〕

26日（木）～27日（金）★公立大学職員セミナー〔国立オリンピック記念青少年総合センター〕

31日（火）★九州・沖縄地区協議会〔福岡ガーデンパレス〕★シンポジウム「公立大学法人化の成果と課題」〔同〕

9月

1日（水）★第2回就職問題懇談会　吉田俊幸委員（高崎経済大学長）、渡邊聡委員（静岡県立大学キャリア支援センター長・教授）出席〔経済産業省別館〕

2日（木）★近畿地区協議会〔平安会館〕

3日（金）★公立大学法人会計セミナーに係る意見交換会〔協会事務局〕

7日（火）★第2回公立大学協会の組織等検討作業部会〔協会事務局〕

10日（金）★シンポジウム「ストロングアーツ：地域の元気は、芸術文化の元気から」〔名古屋都市センター〕★東海・北陸地区協議会〔同〕★東海・北陸地区SDセミナー「情報の共有化と人材育成の進め方」〔同〕

17日（金）★関東・甲信越地区協議会〔高崎経済大学〕★シンポジウム「公立大学法人化の課題と地域貢献」〔同〕★第32回商・経・経営部会／第40回事務研究会〔北九州市立大学〕

29日（水）★生活科学・環境学系部会〔ヴィアーレ大阪〕

30日（木）★北海道・東北地区協議会〔青森県立保健大学〕★公開シンポジウム「大学職員の教育」〔青森県立保健大学〕

10月

1日（金）★全国高等学校長会来局「家庭に関する学科卒業者の入学選抜について」要望書を受理〔協会事務局〕

5日（火）★中国・四国地区協議会〔広島市立大学〕

12日（火）★入学者選抜実務担当者協議会〔東京グランドホテル〕

13日（水）★シンポジウム「芸術系公立大学の果たす役割」〔沖縄県立芸術大学〕★芸術部会学長会議〔同〕

14日（木）★芸術部会事務局長会議〔沖縄県立芸術大学〕

15日（金）★第2回理事会〔協会事務局〕

18日（月）★群馬県立女子大学今井学長就任挨拶

22日（金）★教務系担当者協議会〔梅田スカイビル〕

25日（月）★第2回第3委員会〔協会事務局〕